

協議テーマにおける課題等について

1. 協議テーマ

子どもをとりまく社会教育のあり方について（仮）

—学ぶ喜びと居場所のために—

2. グループ構成に向けた視点

(1) 地域における子どもの学びと居場所（仮）

(2) 外国にルーツを持つ子どもの学びと居場所（仮）

3. 前回のグループワークで出された課題等

(1) 地域における子どもの居場所

- ・遊びながら学べる場所がどういう地域にあるのか（行きやすさ等）
- ・支える人と場所が必要
- ・「学習支援」「不登校対応」「福祉的な対応」などそれぞれの居場所があり、それぞれに考えられる課題等がある
- ・社会教育施設の配置密度はどうか
- ・子どもだけで行ける場所なのか、大人も参加するべきなのか
- ・同年代の友達や遊ぶ友達の有無
- ・共働き家庭や両親が長時間不在などの家庭環境にある子ども達の活動場所がない
- ・遊ぶ場所があっても、制限があると子ども達の自主性が育まれにくいのではないか
- ・居場所となっているところのスタッフはどんな支援をしているのか（習い事、スポ小など含む）
- ・子ども達は喜びや達成感を感じているか

- ・行政としてどのような支援が必要か
- ・団体同士がうまく連携しているのか
- ・参加費等の金銭的負担はどうか
- ・不登校の子どもにとっての平日の日中の居場所はどうか

(2) 外国にルーツを持つ子どもの社会教育のあり方

- ・出身国が増えてきており、様々な言語へ対応しなければいけない
- ・家庭内への支援も必要（親が日本語に馴染んでいない家庭）
- ・親も地域との繋がりや支援先との繋がりが不十分なのではないか
- ・日本文化・社会へ馴染んでもらうとともに、相手の国の文化を理解すること
- ・支援団体や学校などがどういう取組みをしているのか
- ・支援団体が目指すところはどこなのか（日本に定着する外国人を育てるのか、もしくは、外国人が地域とどう繋がっているかを見ていくということなのか）
- ・言葉の壁があり、学校の勉強についていけないのではないか
- ・言葉の壁だけでなく、発達のでこぼこ等、困難を抱えている子どもを取りこぼしている可能性があるのではないか
- ・対象となる子ども達が多いエリアはどこなのか、どのように過ごしているのか
- ・母国のことを伝える機会が少ない
- ・母国との教育レベルの違いがある